



世界に希望を生み出そう

2023-2024年度

RI会長

ゴードン R. マッキナリー

RIテーマ

CREATE HOPE in the WORLD

国際ロータリー第 2830 地区

八戸北ロータリークラブ

会報

〒031-0081 青森県八戸市柏崎一丁目6-6 八戸プラザホテル内
TEL.0178(44)3121 FAX.0178(44)3128

<https://8kitarc.com/>

例会日：毎週火曜日 12:30 開会



ガバナー ● 築館 智大 会長 ● 小林 弘文 幹事 ● 平野 薫 SAA ● 久保 隆明

8月 会員増強・新クラブ結成推進月間

vol. 7

第 2538 回例会 2023.8.22

12:30 ~ 八戸プラザホテル

司会：吉田美登紀副SAA

RIテーマ

点鐘

- ・ロータリーソング
- ・クラブソング
- ・四つのテスト

ゲストの紹介

八戸学院大学健康医療学部人間健康学科
准教授 佐藤 千恵子先生

ビジター



吉田 賢治様
(南グループガバナー補佐・八戸南RC)



妻神 和憲様
(地区副幹事長・八戸RC)



斉藤 翔様
(東京銀座RC)

誕生日祝い

小林弘文会員 源新和彦会員
吉田悦子会員

(食事)

会長要件

小林弘文会長



本日の例会は、ここでは約1か月ぶりになります。この間、お祭り休み、南部RCさんとのラジオ体操、南グループ合同夜間例会とありました。久しぶりに皆さんとゆっくり顔を合わせてのお昼になっています。

先週、南グループ合同夜間例会に参加させていただきました。当クラブからも多数参加されていて感じたことなんですけども、新会員の紹介が当クラブからはありませんでした。今月は会員増強月間でもありますので、今年一年、来年春までには1人でも多く入っていただけるように探したいと思っています。今後、ぜひお声がけして夜間例会等に参加していただければと思っています。

幹事報告

吉田悦子直前幹事



- ◎ガバナーより退会防止と会員増強のお願い
- ◎秋田県豪雨災害への支援金のお願い

親睦委員会

佐々木悦郎会員



ニコニコBOX

八戸RC
妻神和憲様：地区大会ご協力ごあいさつに伺いました。よろしくお願ひいたします。

八戸北RC

小林弘文会長：誕生日ありがとうございます。56才になります。

源新和彦会員：誕生日のお祝い、ありがとうご

ございます。

源新育子会員：今年の二科展、入選しました。

暑い日が続きますが皆様お元気で。

小向龍悦会員：早退失礼いたします。

神山智子会員：佐藤先生、本日はよろしくお願
いいたします。

吉田悦子会員：お誕生日お祝いありがとうございます。
早退します。

小野晶子会員：佐藤先生の卓話、楽しみです。

田村隆直会員：佐藤先生、本日はよろしくお願
いいたします。

米山記念奨学金

澤口忠彦会員：

吉田美登紀会員：佐藤先生、本日はよろしくお
願いします。

ポリオ・プラス

千葉清彦会員：

念です。青森県は高校卒業時点での就職率が一番高いんです。奨学金をもらって学費に充ててアルバイトをして生活費をまかなうことも出来ます。現場の教員としてはあきらめる必要はないと思います。地元企業に就職すれば奨学金返済をサポートしてくれる企業も増えてきています。

そういう家庭の親御さんは周りに相談相手がいないのでどこに何を相談したらいいかわからないという人も多くいます。非正規雇用の場合が非常に多いです。夜勤であったり休みが取れなかったりで疲れ果て、子供達とのコミュニケーションがとれていないんですね。だから子供達は自分で勝手に進路を決めてしまうわけです。現在は物価高で食費を切り詰め、病院にも行けない家庭もあります。

国は2014年に子どもの貧困対策推進法を制定していろんな支援策を推し進めています。今年4月にはこども家庭庁が設置され、もっと対策が進んでいくのではないかと期待感を持っています。

こども食堂=貧困というイメージは、マスコミがつくり上げたもので、実際は子供が一人でも安心して来れる場所、「地域の居場所づくり」だと考えています。共働き家庭が増えて孤食、一人で食べている子供達がすごく多いので、月1回でも近くでこども食堂を開催して居場所を作っています。流しそめんや花火、クリスマス会や餅つきをしたり、イベントの中で子供達の自主性を育成していく。昔は子供会がありましたが今はそういう組織が無くなってきている状態です。少しでも地域の子供達が安心して集まれるような場所を作っていきたいと思っています。

家族以外の大人と交流する共生型が全国でも8割ぐらい、はっきり困窮家庭を対象としたものは県内では青森市と弘前市に一つずつあります。

ここからは子ども食堂の事例を紹介します。実際に起ち上げる際に私も東京や宮城、岩手など、すで

出席報告

本日の出席率 48.6%

前々回（7 / 25）の修正出席率 55.6%

外部卓話「こども食堂」 小林弘文会長

本日の外部卓話は、昨年に引き続きこども食堂の今年の支援について、今までの取り組み、これからの取り組みについて情報を提供していただきたいと思っております。今日の卓話を受けて当クラブで何が出来るか考えて進めていきたいと思っております。佐藤先生よろしくお願いいたします。

八戸学院大学 佐藤千恵子准教授

こども食堂を立ち上げて6年目になりました。昨年3月、8月に続いて3回目になりますが県内のこども食堂の現状についてお話させていただきます。

2018年に青森県の子どもの生活実態調査が行われ、2019年4月に結果が報告されました。対象は小学5年生、中学2年生の子供とその保護者5,187世帯10,374人です。県内の困窮家庭は13.2%、周辺家庭（困窮に近いような状況）が18.2%でした。

私達は、私も含めて普通に生活しています。お付き合いされる方はだいたい同じような環境、生活レベルの方で、周りにそういう方がいらっしやること自体が「えっ！」と思われると思います。経済的理由で大学進学をあきらめる子供が多いのがとても残



に活動されている所をボランティアを兼ねて見学に行きました。ただ作って食べればいいと簡単に考えていても、子供相手であったり、困りごとを抱えている親子もいるわけですから、そういう時は自治体や関係部署のどこに繋げてあげるか、その知識も必要ですし、やはり人脈も必要です。

仙台市のドリームこども食堂の代表の方はシングルマザーでして、自分が働いてるときに自分の子供達をお友達がみてくれたそうです。現在は仕事を辞めて地域の学童保育の代表をされています。「自分の子供達を見て貰ったお返しに、今度は働く女性を支援したい」という思いで月に一度、自宅を開放して実施されています。

二つ目は高齢者を対象とした「みんなの食堂」です。八戸グリーンハイツ主催で労災病院の前にあります。開設前に地域の民生委員に相談して、準備に3ヶ月かけて開催しました。月4回で1週目は会食、2週目はコーラス、次は体操をしたり語り部をしたりと内容盛りだくさんで取り組んでいるところもあります。残念ながら今コロナで休業中です。

三つ目は2019年5月から私自身が「こども食堂」の取り組みの一環として、乳幼児親子対象の離乳食教室「ふるふる」を開設して活動しています。きっかけは八戸市が県内で一番子どもの虐待問題が多いというニュースを見たからです。その背景を考えると、昔は里帰り出産が主流だったんですが、今の社会情勢を見れば親御さんからの支援がもらえない。妊娠から出産、出産してからも一人で子育てをしなければならない現状があります。そういう状況で24時間子供と一緒にだと、子供がかわいいと思えない、離乳食の作り方や与え方、量が分からない、周りに話す友達がいないとか、そういう人たちに、少しでもお手伝いして子育ては楽しいものだと思ってもらえる、集まった人たちで友達になれる機会を与える場所が欲しいと思って開設しました。

コロナの状況を見て活動していましたが、今年は4月から再開して、月1回白山台と湊高台で開催しています。ベビーピクスとか絵本の読み聞かせとか、育児相談などしています。開催にあたって食材の購入やベビーピクスの先生への謝礼などで1回5,000円ぐらい掛かってしまいますので、できれば北ロータリーさんに支援をお願いできないかと思っています。

こども食堂の周知拡大の目的に、親御さんだけでなく地域の子供たちにも知ってもらう取り組みで、小学校がある所には学童保育施設があり「仲良しく

ラブ」というのですが、ここは子供たちが学校終わってから親御さんが帰るまでの時間を過ごす場所なんですけど、そこにお邪魔して子供達と遊んだり、企業さんからいただいた食材を届けて回ったりしています。

ほとんどの「こども食堂」は共食の場として開催し、対象者を貧困限定せず大人でも子どもでも誰でも参加できます。ただ食べるだけの場所ではなく、学習支援（夏休みの宿題など）、農業体験などを弘前の方ではしています。子供たちの自主性を育てるためにもプログラミング学習や自分たちで献立を考え調理している所もあります。そのこども食堂によって特色ある取り組みをしています。

最近では高齢者も受け入れております。車で迎えにいったりなどもします。集まった人たちとの交流によってさまざまな体験ができて笑顔があふれる場所づくりをしています。

今、こども食堂は全国で7000ヶ所を超えました。無料もしくは低価格で食事を提供し、私達はボランティアで活動しております。財源は地域の方たちからの寄付や、自治体や関連機関の助成金で運営されています。

青森県内のこども食堂も今60ヶ所あります。ほとんどが青森県社会福祉協議会の「みんなの居場所」に登録し、そこで情報を共有し、助成金や食材の支援を行っています。

昨年度の北ロータリーさんからのお米の寄贈、大変ありがとうございました。自治体からの支援としては、県の健康福祉部こどもみらい課、農林水産部食の安心安全課、赤い羽根共同募金会からの支援もいただけるようになりました。私が起ち上げた6年前は何もない状態でした。大学の研究費を使って運営したんですけど、最終的には民間の皆さんに引き継いでそれを支援する自治体を目的としてきたので、私自身の目的は達成できたかなと思います。でも60か所とは言えまだまだ足りないの、これからさらに周知拡大をしていきたいと思っています。

企業からの寄付金とか食材の提供も、各こども食堂へ直接寄贈して下さるケースが増えてきていて有難いなと思っています。

八戸市のこども食堂は12ヶ所あるのですが現在ほとんど休業中です。4月から「チーム鮫こども食堂」「すこやかこども食堂」の2ヶ所は毎週活動しています。

休業中は県の社会福祉協議会が中心になって「こども宅食すこやか便」を2ヶ月に1回実施して食材

を配布しています。それから青森県の子ども未来課によって「こども食堂バス」を活用したキャラバンの実施もしています。「こども宅食すこやか便」は事前予約と先着順のどちらかでやっています。年々利用する方が増えてきておりますが、中には生活に困窮しているわけではない人も並び、食材を転売しているということもありました。私達の取り組みが本当に困っている人達に行き届いていないという課題も出てきています。とても残念です。

こども食堂の最初の取り組みは東京の近藤さんという方が、夏休みでご飯を食べられない子たちにご飯を食べさせてあげたいというところから始まり、マスコミの影響もあって全国に広まり、行政や自治体も関心を持つようになりました。

その中でいち早く取り組みをしたのが兵庫県明石市の子ども食堂でした。子ども食堂は小学校区に一つ作れるように整備されてきています。明石市は今人口が増えている市でして、妊婦さん全員に面談をして「何か困っていることはないか？」と質問し、困っていることがあればすぐフォローしてくれる。離婚するときの協定書や規定がしっかりしていて、中学生までの医療費は無料、第二子以降の保育費は無料と聞いております。明石市の事例が話題になって取り入れる自治体が次々と出てきているのが現状です。とてもうれしいことです。

最後に北ロータリーさんへのご提案をさせていただきたいのですが、明石市ではロータリークラブさんやライオンズクラブさん独自のこども食堂というものもあります。ホテルで開設しているところもあり、地域の居場所を提供するという概念でこども食堂を開設してみるのもよろしいのではないのでしょうか。月に一度でなくても夏休みや冬休みだけ開催するなどの方法もあります。では子供たちはどうやって集

めるのか？ 学童保育の所に行くという方法があります。学童保育のある場所に行き、夏休みや冬休みにお祭りをやったりするといいと思います。

二点目は「こども宅食すこやか便」の実施。独自でも、どこかと一緒でもいいのではないかと思います。その際には皆さんの職場やご家庭で余っている食材、缶詰やお中元の品などを集めて配布するというのもいいんじゃないかなと考えています。

最後は去年のようにお米を寄贈していただいたり、物資を提供していただいて、それを県社協の方に話をして八戸市内12か所に配布するというのもいいのではないのでしょうか。

ぜひご検討いただきまして、昨年と同様、継続した取り組みをお願いしたいと思っておりますので引き続きよろしく願いいたします。

能楽キャラバンのお知らせ

源新和彦会員

10月8日、能楽キャラバンで鎌倉ロータリークラブの中森貫太さんがシテ役を務める能楽隊がこちらにやってまいります。八戸公会堂、4000円で行われます。文化庁の支援事業なので通常でしたら10000円はくだらない料金のものです。南グループ内のすべてのクラブに後援していただいておりますし、ぜひ鑑賞していただきたいと思います。チケット・ポスターとも事務局にあります。

提案ですが、インターアクトの生徒さんをご招待できればと思っております。

点鐘